

令和元年度 富士見市 いじめのない学校づくり子ども会議



富士見市の小・中・特別支援学校では、『いじめのない学校づくり子ども宣言』に基づき、児童生徒が主体となり、さらに明るく、楽しい学校生活を送れるよう、いじめ防止に取り組んでいます。

今年度も、いじめのない学校、学級を築くため、今後の取組を考える『富士見市いじめのない学校づくり子ども会議』を開催しました。



いじめとは・・・（「いじめ防止対策推進法」より）

子どもに対して、その子どもと一定の人間関係にある他の子どもが行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、その行為の対象となった子どもが心身の苦痛を感じているものをいいます。

学校の内外を問わず、インターネットを通じて行われるものも含まれます。



『富士見市いじめのない学校づくり子ども会議』開催



開催日:令和元年11月14日(木)10:00~12:30

開催場所:富士見市立市民総合体育館

小学生22名、中学生12名の合計34名の各校代表児童生徒による実行委員が一堂に集まり、自校のいじめ防止に向けた取組をお互いに紹介し、みんなが安心して生活できる学校をつくるために、自分たちができることを話し合いました。

中学校区でグループになり「いじめをなくすために、自分たちでできること」というテーマで話し合いました。



言われてうれしい言葉を増やす「ハッピーバレー」の取組をしています。

僕の学校では、掲示物を作っといじめをなくす呼びかけをしています。



よい取組をしても、協力してくれない人がいることが課題だね。



副実行委員長のことば 勝瀬小学校・高崎 開 くん



「いじめ」はなくさなくてはいけないものです。では、なぜいじめはなくならないのでしょうか。僕は、お互いのことがよく分からないために起こっていることが多いと考えます。例えば「いじめていることに気づいていない」「勝手な思い込み」などがあります。

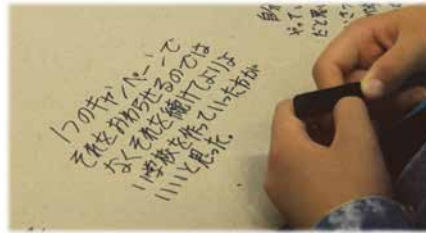
「いじめていることに気づいていない」ことは低学年などに多く、自分が思ったことをそのまま言うことで、相手を知らぬ間に傷つけてしまうことがあります。また「勝手な思い込み」は僕も経験があり、悪いことをしていないのに仲間はずれにされてしまうことがありました。

では、お互いをよく分かり合えばいじめはなくなるのかというと、全てなくすことはできません。全てなくすためには、一人一人の意識が必要です。意識をしていない人は、陰口を言ったり、わざとからかったりしてふざけ半分で人を傷つけてしまいます。意識するだけで「よくないことだ、やめよう」という考えをもつことができます。相手のことを分かり合い「いじめをなくそう」と意識すれば、いじめも差別もない楽しい毎日が送れるでしょう。

☆
 ◎ ネットの使い方をよく考える
 ↳ 自分から世界に発信できる
という自覚をもって



SNSでのトラブルも多いね。相手が見えないからこそ、相手の気持ちを考えて発信することが大切だね。



それぞれの学校でよい取組をしているので、続けていくことが大切だね。

実行委員長のことば 西中学校・高田 晴真 くん

「いじめ」と聞いてあなたは何を思いますか。仲間はずれ、からかい、暴力、悪ふざけからエスカレート。どれも身近にあることですが、「だめ」と誰もが分かっているはず。でも、なぜいじめは起こってしまうのでしょうか。

僕は、いじめが起きる最大の要因は「孤独」があげられると思います。いじめがエスカレートしていくうちに、信頼していた人や周りの人がいじめられている人から遠ざかっていき、仲間がいなくなっていく。そして、いじめられている人は、周りの全員がいじめている人に見えるようになってしまいます。さらに、「自分には仲間がいらない」と思い込み、誰にも相談できなくなってしまいます。こうして、つらい思いをしている人が「孤独」な状態になってしまうのがいじめなのです。

それでは、どのようにすればいじめがなくなっていくのでしょうか。僕は「孤独」をつくらないために信用・信頼できる友だちを一人でも多くつくるのが最大の防止策だと思います。しかし、そう簡単に信用・信頼できる友だちをつくることはできません。ですが、自分が人から信用・信頼されるようになることは決して難しいことはありません。誰かが困っていたら真っ先に動く、相手の気持ちを考えて行動する。どれも今日から簡単に始められることです。普段の学校生活から、多くの人が少しでも気配を配っていけば、信用・信頼される友だちはどんどん増えていくでしょう。そして孤独な人はどんどん減っていくでしょう。また、いじめを減らしていくには様々な取組をしていくことが大切です。今日の会議では他校の取組を聞くことができました。実行委員の皆さんが、その取組を発信していくことでいじめを減らしていくことができ、いじめられている人は、自分のために色々なことをしてくれている人を仲間だと思ってくれれば、居場所ができて、いじめはなくなっていくと思います。

この会議で一番重要なことは、会議後の取組です。ここに参加している皆さんが、活動すればするほどいじめはなくなっていくと思います。ここからいじめのない学校づくりを広めていきましょう。



富士見市「いじめのない学校づくり子ども宣言」



小学生宣言

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことはしてはいけません。」と注意します。
- 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。

私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とつたえ続けます。

平成25年11月16日

いじめのない学校づくり子ども宣言実行委員会

中学生宣言

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりをちゃんと理解して、良くなかったら注意をしてください。」とお願いします。

私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

平成25年11月16日

いじめのない学校づくり子ども宣言実行委員会

富士見市いじめ防止基本方針

平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、富士見市では平成27年4月に「富士見市いじめ防止条例」を制定し、その条例を基に7月に、市の責務、学校及び教職員の責務、保護者の責務、子どもの役割、市民等の役割を明確にした「富士見市いじめ防止基本方針」を定めました。富士見市は、市民の力を結集し、子どもが安心して学び、人とつながり、伸び伸びと成長できる豊かな環境を整えるとともに、子どもたちが主体となり、自らの力でいじめ防止に取り組むことを目指します。

また、この「富士見市いじめ防止基本方針」および、全小・中・特別支援学校が定めた「学校いじめ防止基本方針」は富士見市のホームページで公開されています。

市の責務

市長部局や教育委員会が、いじめの防止等のための対策を学校だけのものとせず、市全体として総合的に取り組みます。

学校及び教職員の責務

各学校で『学校いじめ防止基本方針』を作成し、『学校いじめ防止対策委員会』を中心に、教職員が組織的に、子どもの様子等に注意し、いじめの防止と早期発見、早期解消に取り組みます。また、道徳教育や相談体制を充実させるとともに、定期的にいじめの実態調査を実施していきます。

保護者の責務

いじめをしない、させない、見て見ぬふりをしないことを子どもに教え、心を育てます。また、子どもとの絆を深め、子どもの些細な変化を見逃さず、子どもがいじめを受けていると思われるときは、寄り添い、保護します。

子どもの役割

子ども自身が互いの違いを認め、互いに思いやり、支え合うことで絆を強め、健全な人間関係づくりに努めることで、いじめのない明るく楽しい学校づくりを目指します。また、いじめがあると思われるときは、いじめをやめさせる、身近な大人に相談するなど、いじめの解決を目指します。「富士見市いじめのない学校づくり子ども宣言」を大切にし、いじめの未然防止・解決に向けた行動をしていきます。

市民等の役割

地域で子どもが安心して過ごすための環境づくりに協力し、子どもを見守ります。また、気になることがあれば、声かけや学校等へ連絡します。

インターネットによるいじめへの対処

「ネットいじめ」や「ネットトラブル」の防止に向けて、市・学校・保護者それぞれが問題意識を持ち、ルール作りや啓発に取り組みます。

重大事態への対処(対応)

いじめに関する重大事態が発生した場合には、市、教育委員会、学校及び教職員は、事実関係を明確にするために調査機関を設置し、富士見市いじめ防止条例に基づき組織的に対処します。

